

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人全体の経営理念・介護方針を基に個人が意識的に取り組んでいる。 法人全体の理念・介護方針を基にし、「グループホーム和田」としてはどのような在り方で地域やご利用者・ご家族と関わっていくのか明確でない。	事業所独自の介護方針や在り方を明確にし、それに向かって日々のケアが行えるようにする。	職員会議で話し合いを設け、独自の理念や介護方針を決定する。それを基に、日々のケアの在り方を考えたり、振り返りを行えるようにする。	12ヶ月 (方針決定までは2ヶ月)
2	2 35	利用者の高齢化に伴い、外に出る機会が減っている。地域と共にあること・地域の中での存在意義を考えなければならない。	地域の方と馴染みの関係を築き、お互いに助け合える関係になる。	利用者の高齢化などに関係なく、職員も積極的に地域に関われる機会を設け、なじみの関係を築く。 地域資源を利用したり、事業所を訪れてもらう機会を作る。	24ヶ月
3	23 25 27 31 33 38 52	利用者の高齢化(終末期への対応も含め)に伴う、認知症状の変化・身体機能への変化に対応できる職員のスキルアップ。	ご利用者の変化に気付く。その方の状態に合った支援方法を検討し、統一したケアが行えるようになる。 認知症ケアに特化した事業所作り。	職員の自主的な研修参加・自己研鑽。事業所としても積極的に研修に参加できる体制を作る。 日々の業務の中での意見の活性化。医療連携、その他多職種との連携を強化し、相談しやすい関係を作る。	12ヶ月
4	35	事業所独自の災害対策	万が一の状態にも備え、事業所独自で備蓄品を確保し、利用者の安全を確保する。	火災だけに限らない避難訓練の実施。 備蓄品の確保。	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。